（別紙4）

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2471100236		
法人名	医療法人　茜会		
事業所名	グループホーム　みやき		
所在地	三重県熊野市久生屋町541		
自己評価作成日	平成　30　年　10月　16　日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kihon=true&JigyosyoCd=2471100236-00&PrefCd=24&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成　30　年　11　月　1　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

どの居室からも四季を感じる庭を有めながら、時期の果実などを収穫して味わう楽しみがある家庭的な雰囲気作りを大切にして、ゆっくりとした安心して楽しみのある日常生活を送って頂けるように支援しています。又、御家族や知人の面会時等、気兼ねなくゆっくりくつろいで頂くるように心掛けています。
週に一度の音楽療法士を迎え、懐かしい歌や食べ物、昔ながらの地元の行事、生活の話などの回想法による心のマッサージ、脳の活性化を図っています。
近くにも世界遺産もあり、時々、外出や外食等も楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

自然豊かな住宅地の中にあり、四季を感じることが出来る畑や果樹園がある事業所である。各居室からは広い庭園が見渡され、外に出て散歩するのが日課となっている。理念である「あわてず、ゆっくり、のんびりと」を掲げ、管理者・全職員が共有し、日々の介護にあたっている。個人ノートを作成し実践に活かしたり、利用者の回想法に繋がるようにと居室の壁には大切な家族写真が名前入りで貼るなど、職員のアイデアが随所に見られる。何事も業務中心ではなく、利用者中心にゆったりと一日を過ごしてもらう支援に努めている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『あわてず、ゆっくり、のんびりと』を理念に廊下の壁に掲げ、職員で共有して実践に繋げている。	事業所の理念「あわてず、ゆっくり、のんびりと」を廊下の壁に掲げ、朝の申し送りやミーティング等で確認しあいながら理念の意義に振り返り、日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、事業所の秋祭りや子供たちの慰問などに地域の人たちや老人会などに声を掛け、日頃、近所を散歩したり、近所の人やお店などに見守りをお願いしている。	地区の自治会に加入している。毎年、保育園児や婦人会（大正琴など）の慰問があり、日頃から地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員の方や地域の方、久生屋地区社会福祉協議会の方などを推進委員会に参加して頂き、その中で、認知症について相談や対応などの話しをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し、熊野市健康長寿課、民生委員、社会福祉協議会会長、地区代表、家族代表に参加して頂き、家族の意見や介護の相談に乗ったり、試食会を行ったり、研修情報の提供を受けたりして、サービス向上に活かしている。	年6回開催し、包括支援センター・地区社協・民生委員・家族代表・地区代表等の参加で併設事業所と共にしている。外部の方々から色々な意見や要望を出していただき、サービス向上に活かすように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	健康長寿課包括支援センターの職員に運営推進委員会に参加してもらい、市の担当職員とも日常的な連携を深めるように努めている。	当事業所の他、併設事業所との関係で、熊野市健康長寿課や包括支援センターの職員とも日常的な連携を深めるように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や居室等の鍵は自由に出入る出来るように開放し、全職員が言葉の拘束、身体の拘束等がないケアを心がけている。	管理者・職員は身体拘束・言葉の拘束の意味を理解するため、マニュアルに沿って研修している。 日々のケアの中で気づいた事例があれば、その都度、話し合うようにし、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内での虐待、高齢者の虐待を防ぐために、研修報告を学び、入浴事等に体のチェックなど行い、見逃しのないように注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用の機会がなくできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は説明を行い、不安や疑問点等には、十分に説明を行ったいます。解約又は改定等の際にも事前に説明を行っている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の面会時に日頃の様子をお伝えし、意見や要望などを伺いして、どんなことでも話して頂くる関係作りに努めている。又、運営推進委員会に家族の人にも参加してもらい、出された意見や要望は質の向上に活かしている。	家族代表に運営推進会議に参加してもらっている。来所時には話しやすい雰囲気作りに心がけ要望や希望など聞いているが、来所時が土曜・日曜・祭日が多い為、管理者をはじめスタッフの出勤体制が課題となっている。	運営推進会議だけでは一部の出席者のみの意見だけであり、偏りがちである。アンケートなどを行い、利用者家族の意見の収集が望まれる。
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者、職員間では遠慮なく意見や提案を話し合える関係性で、代表者とも話し合う機会も多く、現場の意見も聞き入れてくれている。外部研修などにも参加、ケアサービスに反映させている。	月１回のミーティングの他、気が付いた時に運営についても意見交換をしている。出された意見は管理者が代表者に報告している。常に、職員が意見を出し易い職場作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境・条件の整備に心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などにも参加し、施設内で働きながら、トレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で、同業者と交流し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学してもらったり、事前にご自宅や施設を訪問して、本人や家族から要望を聞き、安心して暮らして頂けるようなサービスを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と連携をとり、不安や要望等の話し合いを行い、本人の様子、生活などを拝見させて頂き、良い関係作りに努めたいです。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャーや介護職員でカンファレンスを行い、何が必要かを見極めて、サービスに導入している。他のサービスは利用していないが、併設しているデイサービスに遊びに行ったり、来てくれたりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が苦にならない程度で出来るようなことを考え、掃除や洗濯物干し、たたみ等の日常的なことを、一緒に手伝って頂き、暮らしのパートなーの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、写真付きの手紙による近況報告を行い、変化時などは、電話で報告し、話し合いを行なう。又、家族からの電話を頂いた時は、本人と話をして頂き、絆を大切に、共に支える関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別で行きつけの散髪、地元の祭りや馴染みの場所にドライブ、買い物に行ったところで、顔見知りの人に会ったりして、馴染みの人や場所との関係維持に努めている。	長年付き合いのあるお店や知人との対話を、家族の協力も得て個別に支援している。併設事業所や地元の祭りに出かける等、希望に沿った支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を踏まえた上で、楽しく参加できるレクリエーションなどを増やして孤立を防いでいる。ホールや居室でも利用者同士が関わり会えるように、職員が配慮し、雑談などして、支援に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院により退所した方などは、近くに行った時にお見舞いに寄り、御家族とは、買い物などでお会いすると声を掛け合い、相談を受けたり、近くに来た時には、当施設に顔を出してくれたりと、関係を大切にしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中、遠慮なく話せる関係性、言い出しやすい雰囲気の中、希望や意見を汲み取り、又家族の希望も聞き、個別のノートも利用してその人らしい生活が出来るように支援している。	日々の支援の中で聞いたことや思い出の場所に行った記念写真などをノートに貼り、職員が一言書き加えている。職員間で個人ノートを活用し、個別ケアの実践に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族、ケアマネージャー等から、これまでの生活歴や経過、経緯等をお聞きし、入居後も家族等も面会して、色々な話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態にあった支援を行い、過剰介護をしないように心がけている。毎日のバイタルサイン、機能訓練等を行い変化があった時には、嘱託医に相談して、健康管理を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝のミーティング時に変化があれば、随時話し合い、職員全員で意見を出し会って、6ヶ月毎に見直し、本人、家族の意見に沿った現況課題を介護計画に活かしている。	介護計画は利用者・家族・担当職員・主治医の意見も取り入れて、個別ノート・介護記録に基づき支援内容の実施状況を評価している。6か月ごとの見直しとモニタリングをしている。	介護計画は説明するだけではなく、作成にあたっては本人・家族との話し合いが大切であり、それを基に介護計画を作成し、3か月ごとの見直しが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤、夜勤の状態を記録し情報や注意点等を、朝のミーティング等で情報の共有を行い、援助や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々の状態に応じた支援を行い、食事の時間や形態の変化、個別の外出、他様々な面で柔軟に対応が必要で実践に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の見守り、園児の来訪、消防署に協力依頼し避難訓練や外部より講師を招き、週に一度の音楽療法、買い物、外出など、地域資源を把握し、外部刺激も受けながら、楽しみのある暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科嘱託医と職員が連携を密に取り、受診、往診、かかりつけ医への受診支援等、一人ひとりが適切な医療が受けられるように支援している。	利用者全員が内科嘱託医であり、1～2か月に1回往診がある。利用者の他科受診は職員が支援している。日常の健康管理や医療連携は併設事業所の看護師の力も借り、管理者が支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ法人の中に看護師がいるので、相談できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の地域連携室と相談し情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の家族には要介護4になった時点や又は医療行為が生じた時に今後について話し合っている。現在看取りは行っていないが、終末期に向けて御家族の希望、本人の状態、先生の判断を仰ぎ出来るだけ希望に添えるようしている。	現時点で看護師不在の為、看取りはしていない。入居時や医療行為が生じた時点で、本人・家族とは話し合いを重ね、早い段階から特養の申し込みをしてもらうが、出来るだけ本人の希望に添えるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてのマニュアルを作成し、皆が見えるところに貼っているが、訓練は、定期的には行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定して、昼間の訓練を年2回熊野消防の協力を得て防災訓練を行っている。地区の区長さんや町内の元消防士さんなどにも協力をお願いしている。	年2回の防災訓練および夜間を想定した訓練をしている。地元の協力もあり、利用者の避難の順番や避難後の対応は車内に誘導するなどの確認を行った。災害に備えてガス発電機の試運転や非常食の備蓄もしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した声掛け、利用者の気持ち寄り添う支援を行っている。	人生の先輩としての対応に心がけ、特に言葉使いに気を付けている。気になる対応があるとその都度、職員と話し合い、指導している。排泄の際のケア、個人情報の保護にも十分注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を遠慮なく言えるように関わりを多く持っている。自己決定のできない方には、思いを汲み取る努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は各自、起床された時間に行い、昼食、夕食も一応、時間に声掛けはするが、お腹の減りや体調面で、時間をずらすこともある。日中の過ごし方や就寝時間は、各自の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの散髪に定期的に通われたり、美容師に来てもらい各自、自身の希望の髪型にカットし、毛染めを希望する方は、職員で染めている。自己決定ができない方には、その人らしい服装を選ぶように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物や地元のものを取り入れた献立を立てている。利用者と一緒に買い物に行ったり、おやつなど一緒に作ったりすることもある。又、時々、外食に出掛ける。	昼食メニューは併設のデイサービスと同じだが、畑で採れた野菜が加わり3食とも職員の手作りである。誕生日には利用者の意向に沿った好物を食してもらう工夫をしている。又、見学のついでに外食する時もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は、毎日チェックし、水分の苦手な方には、ゼリー状にしたり、食事を工夫したりと一人ひとりの状態に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを行っている。自分でできない方は、職員が手伝いうがいなど行っている。就寝前には、義歯は洗浄剤につけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、日中はトイレ誘導をさりげなくしている。夜間も時間を見て、声掛けでトイレ誘導している。排便は、チェック表にてコントロールしている。	排便の記録を確認しながら、夜間も含め、さりげなく声掛け誘導をしている。布パンツ利用者が少ないが自立に向けて地道なトイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品、食物繊維の多い物、オリーブ油、水分等しっかり摂取して貰えるよう声掛けし、排便チェック表を付け個々に対応している。レクリエーションの中で、腹部マッサージ等も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めて週2～3回入浴。入浴は個々の都合で時は日を変えて対応し、入浴剤を利用したり、5/5は菖蒲湯、冬至にはゆず湯など入れ、楽しめる工夫をしている。入浴を拒否サれる方には、時間を置き職員を交代して誘導している。	週2回、午后入浴を基本としているが、利用者の希望や健康状態にも配慮した支援をしている。冬には入浴剤などを入れてリラックスしてもらう工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に居室に行き、好きな時間に少し昼寝をされる方もおられ、夜間も自由に就寝している。 なるべく希望に応じている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供を個々のファイルに綴じ、すぐに見えるようにしている。手渡しし服薬の確認をしており、状況に変化のある時は、嘱託医に相談してます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の洗濯物たたみを手伝い頂き、音楽の好きな方は、週に一度の音楽療法に参加してもらい、季節のお出掛け計画したりと楽しみ気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者が一度も行ったことがないと言われ、太地の水族館に出掛ける計画を実行する。個別にドライブや外食、地元の祭りなど希望を把握して支援している。年に一度那智勝浦青岸渡寺にお参りに行くよう支援している。	天気の良い日は広い裏庭を散歩している。 個々の対話を下に、おやつ持参でドライブに行ったり、嗜好品や生活に必要なものの買い物も個別対応で出かける支援をしている。家族と外食を楽しむ利用者もいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布を持っている方は、希望に応じて職員が把握し外出時など使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方は、居室から知人に連絡を取られたり、別の方は、年賀状やお礼状を書いて家族や知人とやり取りをされている方もおり、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に名前を付け、暖かみを出せるよう各居室の入り口にのれんを付け、プライバシーを守り、廊下の壁には、お出かけした時の写真を飾り、楽しく居心地の良く過ごせるように工夫している。	廊下の入口にはスタッフの名前入り写真が貼ってあり、家族から喜ばれている。食堂兼居間では、美味しそうな匂いが漂う中、利用者同士が談笑したりテレビを見たり、のんびりと寛げるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やホールにソファーを置き、各利用者が、その時の気分に応じて、くつろげるようにしている。日々気の合う利用者同士が廊下で写真を見ながら話をし、笑い合う光景がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身の回りの物は今まで使っていた物を使用し、居室には自身で書いた書道や大きな写真付きの家系図を作成し飾ったり、家族の写真を飾ったりして、居心地良く過ごされるように工夫している。	居室入口には利用者が選んだ表札代わりとなる暖簾が掛けてある。掃除の行き届いた室内は使い慣れた家具等が置かれ、壁には大切な家族の名前入り写真が貼ってあり、忘れないようにやさしい工夫をしている。窓から見る庭の樹木で季節を感じ取る工夫もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やホールは十分な広さを確保し、安全に自由に移動出来るように配慮している。トイレの場所などは、大きく名前を書いて分かり易くしている。		